



滋賀県草津市立草津中学校

令和5年7月13日(木)発行

「いのちかがやき 心豊かな生徒の育成」

～ひとを大切に ひとつを大切に～

7月13日現在 全校生徒数688人



優しい思い

～そっと寄り添ってくれる人の存在について～

草津中学校長 高田 聡

この7月は1学期のしめくくりの月になります。新しい学年がスタートし4ヶ月、速く感じた人、遅く感じた人それぞれいると思います。「あれもしなければ、これももしなければ」と毎日を忙しく過ごしている私たちは、周りで支えてくれている方に気づかずに日々を過ごしてしまっていることもあります。私たちにそっと寄り添ってくれる人の存在が心の支えになるとするなら、その優しい思いをどう表せばいいのか考えてみましょう。

「〇〇さんはいつでも自分の頑張りを見守ってくれている」という実感は、私たちにとって心強い支えになります。同時にこうした関係性の大切さは、さまざまな人間関係においていえることでしょうか。励ましとは叱咤激励の言葉をかけたり、具体的なアドバイスをしたりすることだけをいうのでしょうか。がんばっているのに努力がなかなか実を結ばないとき、思いがけない失敗に自信をなくしてしまいそうとき、さらには大きな悲しみや苦しみに直面したとき、私たちの心の支えになるのはどのようなことでしょうか。



<1年びわ湖体験学習>

一人ひとり立場や境遇を異にする私たちは、性格も異なれば得意・不得意も異なり、物事の捉え方や考え方も人それぞれです。たとえ家族であっても「すべてにおいてそっくり同じ体験をして、全く同じことを思う」ということはありません。また、さまざまな経験を積むことで知らず知らずのうちに視点の高さも変わってきます。だからこそ、家族の間でも相手の立場を思いやる必要があるのでしょうか。そして私たちは他の人と全く同じ体験をすることはできませんが、その出来事が相手にとってどれほど大変なことだったのかを想像したり、相手の気持ちを察したりする努力はできるでしょう。このとき「寄り添う思い」が意味を持つのです。相手の心に寄り添おうとする優しい思いのこもった一言は、ささやかなものであっても相手の心に響くのではないのでしょうか。私たちの心の働きは具体的な言動だけでなく、表情や態度なども含めたさまざまな形で表れるものですから、「寄り添う」という思いやりの表し方にもさまざまな表現があるでしょう。例えば相手の話に耳を傾けること、温かいまなざしを向けること、柔らかかにほほ笑みかけること・・・そうした直接的な働きかけに対して、相手の努力を陰でそっと見守りその幸せを祈ることも「寄り添う思い」の表現の一つといえます。こうした優しさは相手はすぐには気づかないかもしれませんが、直接的な言動に「相手の幸せを祈る心」が加味されたなら、私たちの思いやりの行為は、一層深みを増していくことでしょう。

私たちが自分自身の日々を喜びの多いものにするためには、周囲の人たちも笑顔になったうえでそこに潤いのある人間関係を築いていく必要があります。そのためにもまず自らが率先して、身近な人たちに対する思いやりの心を表していくことが大切です。身近な人が喜ぶことや安心・満足につながることを「寄り添う思い」を持って考えてみてはどうでしょうか。日々そのように心がける中で、相手の笑顔に触れることができたなら、自分自身も喜びを感じるようになるのではないのでしょうか。そして自分自身が誰かから思いやりの行為を受けた際には、温かい笑顔で感謝の気持ちを伝えたいものです。それもまた相手の喜びにつながっていくことでしょう。今よりもほんの少しだけ、心の中の「優しい思い」を積極的に表していきませんか。それが周囲の人たちの心を温かく照らすとともに、自分自身の毎日を潤していくことになるのです。



<書道教室>

(ニューモラル638号より一部抜粋)